

ると、スウェーデンに次いで低い数字となっている。また、自宅に留まりたい人の中でも「改築の上」で留まりたいとする人の割合は、日本は韓国に次いで低いが、5年前と比較するとやや上昇している（図1-2-6-2）。

### イ 高齢者は家庭内事故が多く、最も多い事故時の場所は「居室」

国民生活センターに医療機関ネットワーク事業の参画医療機関から提供された事故情報によると、65歳以上高齢者の方が20歳以上65歳未満の人より住宅内での事故発生の割合が高く、65歳以上高齢者の事故時の場所にみると、「居室」45.0%、「階段」18.7%、「台所・食堂」17.0%が多い（図1-2-6-3）。

### (2) 高齢者の居住環境

60歳以上の人が地域で不便に思っていることをみてみると、平成22（2010）年では、不便な点が「特にない」という人が約6割（60.3%）であるが、不便に感じている事柄としては、「日常

の買い物に不便」（17.1%）が最も多く、次いで「医院や病院への通院に不便」（12.5%）、「交通機関が高齢者には使いにくい、または整備されていない」（11.7%）となっている（図1-2-6-4）。

### (3) 高齢者の安全・安心

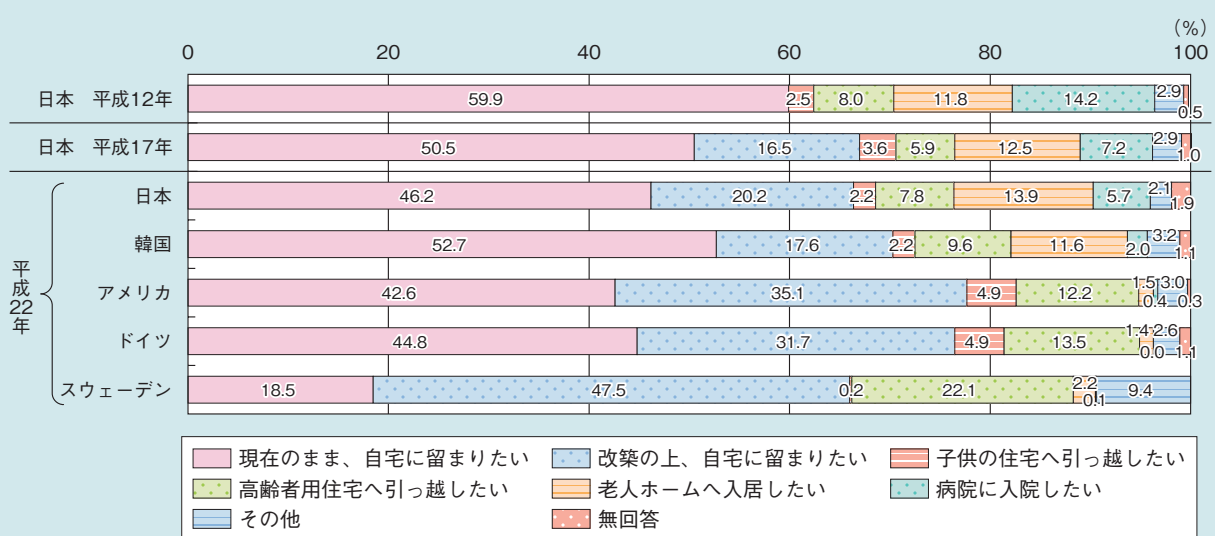
#### ア 高齢運転者による交通事故件数が高い水準で推移

65歳以上の高齢者の交通事故死者数をみると、平成24（2012）年は2,264人で前年より1.2%減少した。しかし、交通事故死者数全体に占める65歳以上の割合は51.3%と半数を超えている（図1-2-6-5）。

#### イ 振り込め詐欺の被害者の8割以上が60歳以上

犯罪による65歳以上の高齢者の被害の状況について、刑法犯被害認知件数でみると、全刑法犯被害認知件数が戦後最多を記録した平成14（2002）年に22万5,095件となり、ピークを迎えて以降、近年は減少傾向にあり、23（2011）

図1-2-6-2 虚弱化したときに望む居住形態



資料：内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」（平成12年、平成17年、平成22年）  
 (注) 対象は60歳以上の男女